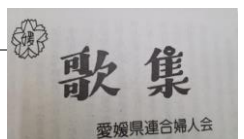


<愛媛県内婦人会の出来事>

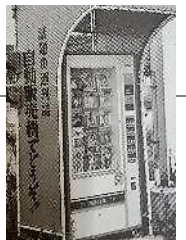
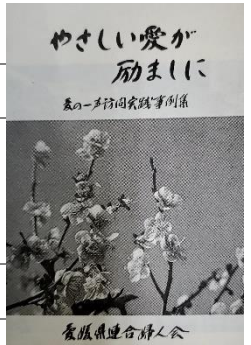
| 年度 | 出来事 | |
|----------|---|---|
| 昭和 21 年度 | ◆4月 10 日に婦人参政権を初行使したあと、各地で新生婦人がグループを作り始め、小さいグループが村・町でまとまり、郡市へと輪を広げる。 | |
| 昭和 22 年度 | ◆4月 松山市連合婦人会が誕生 ◆12月 愛媛県連合婦人会を結成。まとめ役は宇摩郡土居町の初代会長 高橋イク |  |
| 昭和 23 年度 | ◆5月 二代会長 則内ウラ 就任 ◆愛媛県連合婦人会の会則ができる（会員数：約4万5千人） ◆進駐軍のスナイダー米陸軍大尉とジョンソン女史が県下の婦人グループを厳しく指導 |  |
| 昭和 24 年度 | ◆「結婚改善の普及」「家庭生活の合理化」「政治学習の推進」に県下各地で努力する。 | |
| 昭和 25 年度 | ◆スナイダー大尉から民主的な会の運営方法や会議の開き方などで指導される。非常に有意義であったという。 | |
| 昭和 26 年度 | ◆三代会長 綾井彰江 就任 ◆第1回えひめ婦人大会を開催。スローガンは「①青少年保護育成 ②母子福祉対策 ③戦没者遺族の援護」 ◆S27.2月 機関紙「えひめの婦人」創刊 |  |
| 昭和 27 年度 | ◆全国地域婦人団体連絡協議会(現 全国女性団体連絡協議会)を結成。愛媛県など21都府県連が参加 | |
| 昭和 28 年度 | | |
| 昭和 29 年度 | ◆「経済」「幼児」「政治」の三部の専門委員会を設ける。これは全国に誇る実践活動を展開することになる。 ◆婦人学級を各地に開設 |  |
| 昭和 30 年度 | ◆四代会長 松本久子 就任 ◆『えひめ婦人のうた』ができる ◆会服を指定（着物の上に着られるよう袖が幅広い上着） |  |
| 昭和 31 年度 | ◆新生活運動を推進。特に食生活の改善に力をいれる。結婚式改善運動でモデル結婚式を行う等して、各地で行う。 | |
| 昭和 32 年度 | ◆『母と子がよい映画を見る運動』を推進。青少年の健全育成を願い、会員一人10円ずつの寄付をしてフィルムを購入し、貸出や各地を巡回 | |

| 年度 | 出来事 |
|----------|--|
| 昭和 33 年度 | ◆キッチンカーによる巡回料理講習を全県下で行い、食生活を指導 |
| 昭和 34 年度 | ◆第 9 回えひめ婦人大会で、婦人会活動の拠点として会員が待望していた『愛媛県婦人会館』の建設を決議 |
| 昭和 35 年度 | ◆全国的に青少年の刃傷沙汰が増えたため、『刃物を持たせない運動』を推進 |
| 昭和 36 年度 | ◆婦人会館の建設資金づくりのために『ゆかた』を売る。好評で成果もあげる。その他、資金づくりに苦闘 ◆新生活えひめ婦人展示研究大会を松山三越で開く |
| 昭和 37 年度 | ◆第 10 回全国地域婦人団体研究大会が今治と松山で開かれる。全国各地の代表は瀬戸内の夏を楽しんだ。 ◆『婦人手帳』を発行 |
| 昭和 38 年度 | ◆駅前広場や老人ホーム、幼稚園などに『花いっぱい運動』を繰り広げる |
| 昭和 39 年度 | ◆12 月 愛媛県婦人会館が落成 ◆婦人会員の『信条』決まる |
| 昭和 40 年度 | ◆五代会長 日野豊 就任 ◆実践が大切と、各郡市に一地区の『地域婦人会活動モデル地区』を指定 ◆婦人参政 20 周年記念パレードを婦人大会の日に行う。 |
| 昭和 41 年度 | ◆子ども達を交通事故から守るため、黄色いハンカチを共同購入し、横断歩道を通る際に振らせる『黄色いハンカチ運動』を行う。 |
| 昭和 42 年度 | ◆楽しい家庭づくりの標語を募集 |
| 昭和 43 年度 | ◆飲酒運転の『三ない運動』をする。署名運動で 12 万署名を集める。 |
| 昭和 44 年度 | ◆愛媛県婦人会館に三階ホールを増設し、冷房設備を改良 ◆親子で楽しめる『歌集』を作る ◆第 19 回えひめ婦人大会で家族全員による『親子でうたいましょう』を催す。5 千人の会員大喜び！ |



| 年度 | 出来事 |
|----------|--|
| 昭和 45 年度 | |
| 昭和 46 年度 | <p>◆楽しい家庭・豊かな家庭づくりの作文を小中学生とお母さんから募集し、作文集を作る。</p> |
| 昭和 47 年度 | <p>◆『独居老人愛の一声訪問』を始める</p>  |
| 昭和 48 年度 | <p>◆ふるさとを美しくする運動を各地で展開。福祉施設訪問も活発に行われる。</p> |
| 昭和 49 年度 | <p>◆全国青少年育成国民会議の提唱に従い、『家庭の日』を毎月“第3日曜”に変更。普及のため、ポスターやカレンダーを各家庭に配布 ◆第一次オイルショックに伴い『暮らしを見直す運動』を始め、「お見舞い返しを廃止しましょう」「香典返しを廃止しましょう」と、祝儀・不祝儀袋に印刷して虚礼廃止を呼びかける。</p> |
| 昭和 50 年度 | <p>◆危険なバス停を総点検し、写真を添えて建設省・土木事務所・県バス協会に改善を訴える。結果、相当数のバス停が改善された。</p>  |
| 昭和 51 年度 | <p>◆公民館で、しめ縄づくりなど古いものを伝承、古い民具などの写真を展示した『三世代が楽しい家庭づくり』の催しをする ◆寝たきりの病人を2～50年も看護し続けている県下の1,300人に激励の手紙を出す。多くの人からお礼状がきた。</p> |
| 昭和 52 年度 | <p>◆ごみ量激増のため、「過大包装追放」「ふろしき運動」「古紙回収」「水切り」等、ごみ減量運動を始める ◆婦人会服に洋服用(C型)ができる。会員の要望に応えたもので、従来のゆったりとした和服・洋服兼用の衿ありタイプ(A型)、衿なしタイプ(B型)と合わせ、婦人会服が三種類となった。</p> |
| 昭和 53 年度 | <p>◆愛媛県連合婦人会発足 30 周年記念行事を盛大に行う。</p> |
| 昭和 54 年度 | <p>◆『交通安全母の会』を結成。交通安全マッチを運転者に手渡し、無事を願う。 ◆同和問題婦人学習講座を開講 ◆県教委教育長・県連婦人会長による『優良地域婦人会表彰』が始まる</p> |
| 昭和 55 年度 | <p>◆各郡市一学級(30名)の『若鮎学級』を開講 ◆各郡市会旗を作成</p>  |

| 年度 | 出来事 |
|----------|---|
| 昭和 56 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆各郡市一学級(50 歳以上 30 名) の『熟年学級』を開講 ◆会員の会費・機関紙代づくりに、石けん・歯ブラシを共同購入 ◆若鮎学級用に、『絵かき歌』『しつけのことわざ』を集録 |
| 昭和 57 年度 | |
| 昭和 58 年度 | |
| 昭和 59 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆全国地域婦人団体連絡協議会副会長に日野豊会長 就任 ◆会員同士で教え合う『ふるさとの味づくり活動』を行う ◆全県下で婦人会行事として初めて『第 1 回 仲よし運動会』を催す |
| 昭和 60 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆青少年健全育成のため、親子の温かいふれあいの場『親子の広場』を開設 ◆県教委教育長・県連婦人会長による『婦人会功労者表彰』が始まる |
| 昭和 61 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆婦人会員だけでなく、子どもや高齢者と一緒に『愛の一声訪問』を行う。この三者一体となった福祉活動には効果があった。 |
| 昭和 62 年度 | |
| 昭和 63 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆全国地域婦人団体連絡協議会会長に日野豊会長 就任 |
| 昭和 64 年度 | |
| 平成元年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆情報化社会に対応するための生涯学習に取り組む |
| 平成 2 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆タバコやお酒、ビニル本等自販機の調査をする |
| 平成 3 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ごみ減量、リサイクル、省エネ等、「私がしなくては」の気持ちで必要以上にゴミを作らない取組みを行う。 |
| 平成 4 年度 | |
| 平成 5 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ◆エイズが社会問題となり、学習や調査に取り組む |
| 平成 6 年度 | |
| 平成 7 年度 | |
| 平成 8 年度 | <p>阪神大震災起こる</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆義援金 1,867 万円を兵庫県連合婦人会他に贈呈 |



| 年度 | 出来事 |
|--------|---|
| 平成9年度 | |
| 平成10年度 | ◆創立50周年記念大会を開催（第48回えひめ婦人大会） |
| 平成11年度 | 平成の大合併が政府主導で始まる ◆六代会長 松本スマ子 就任 ◆全地婦連・四国ブロック会議を愛媛県で開催（松山市：にぎたつ会館） ◆テレビで婦人会活動を紹介（テレビ愛媛にて） |
| 平成12年度 | |
| 平成13年度 | ◆七代会長 高本繁子 就任 ◆第51回えひめ婦人大会内で、婦人会バージョンの「明日があるさ」ができる |
| 平成14年度 | |
| 平成15年度 | |
| 平成16年度 | ◆第54回えひめ婦人大会の講師として、タレントのKONISHIKIさんが来られる ◆郷土料理本“やっぱり食べたいかあさんの味”発行 |
| 平成17年度 | 平成11～17年にかけての平成の大合併により、新たな市町連合婦人会発足。各地で新たな活動が始まる ◆八代会長 山本アツ子 就任 |
| 平成18年度 | ◆全地婦連・四国ブロック会議を愛媛で開催（松山市：メルパルク松山） ◆女性から見た防災学習会を開催 |
| 平成19年度 | |
| 平成20年度 | |
| 平成21年度 | ◆九代会長 川本登倭子 就任 ◆第59回えひめ婦人大会で、西条市のアトラクション「腹踊り」を見た三浦清一郎先生が「えひめ婦人会のズンドコ節」を作ってくれる ◆四国結核予防婦人団体幹部研修会が松山市のホテル椿館で開催 |
| 平成22年度 | ◆えひめ婦人大会第60回記念大会開催 ◆全地婦連・四国ブロック会議を愛媛で開催（今治市：湯の浦ハイツ） |
| 平成23年度 | |
| 平成24年度 | ◆総会にて、（公財）愛媛県婦人会館の解散を公表 ◆LPガス安全委員会会長特別表彰として、県連婦が模範保安活動表彰を受賞 |



平成 25 年度

- ◆ 4 月 愛媛県生涯学習センターに事務局移転
- ◆ 9 月 30 日 愛媛県婦人会館 閉館



平成 26 年度

- ◆ 全地婦連・四国ブロック会議を愛媛県で開催（松山：メルパルク松山）
- ◆ 全地婦連公募事業「女性のためのくらしとお金（基礎講座）」開催

平成 27 年度

- ◆ 十代会長 三好康子 就任
- ◆ 地域女性リーダー育成講座を開講
- ◆ LP ガス協会と提携し、防災学習会を開催
- ◆ 全地婦連公募事業「女性のためのくらしとお金（応用講座）」開催



平成 28 年度

- ◆ 「女性のためのくらしとお金の教室」シンポジウム in 愛知にて、事例報告を行う



平成 29 年度

- ◆ 「愛顔つなぐえひめ国体」「愛顔つなぐえひめ大会」にて、各地区婦人会がおもてなし料理等のボランティアを行う。



平成 30 年度

- 7 月 西日本豪雨災害起こる
- ◆ 愛媛県内だけでなく全国の婦人会員から集まった義援金を被災地（6 市町連）と日本赤十字社愛媛県支部へ届ける
- ◆ 全地婦連・四国ブロック会議兼えひめ婦人大会を開催（松山市：ひめぎんホール、メルパルク松山）

平成 31 年度

令和元年度

- ◆ 県連婦でSDGs や「エシカル消費」を地域に広めるため勉強や活動を行う。

令和 2 年度

- 新型コロナウイルス発生 感染予防のため活動自粛となる
- ◆ 県連婦にてSDGs を広めるためにブローチを配布・販売

